令和８年度　開成町立開成小学校学校だより　第７号

開物成務

令和８年１０月２０日（火）発行　校長　大越　泰子

後期が始まりました

今年度より ２ 期制となり、３ 連休をはさんだ13 日（火）より後期がスタートしました。

９日の終業式の際に「今日は3つの透明なポケットをつけて帰ろう。」という話をしました。

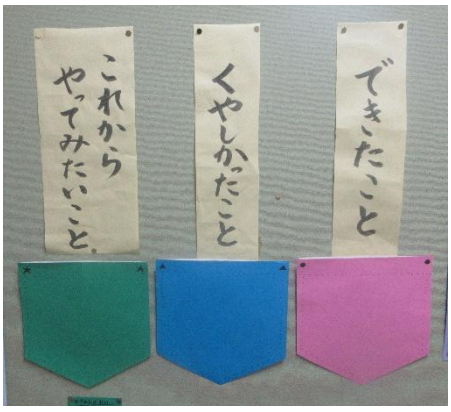
１つ目は「できたこと」を入れるポケット。自分ががんばったことや良かったこと、嬉しかった出来事などの宝物を入れるポケットです。

２つ目は「悔しかったこと」を入れるポケット。失敗や後悔の気持ちは「もっとよくなりたい」という気持ちがある証拠です。そんな気持ちをギュギュっとポケットに詰め込んでください。

３つ目は、「これからやってみたいこと」をいれる空っぽのポケットです。ワクワクする夢や目標をいれるための準備をしましょう。

「できたこと」で自信をつけて、「悔しかったこと」で強くなって、「やりたいこと」で前に進む。そんな節目の日になって欲しいという願いをこめて話をしました。

朝会後さっそく、「ぼくはね～。」「私はね・・・。」と色々お話してくれる子がいたので、校長室の前にジャンボポケットをつくりました。



校長室の前で、前期を振り返り、後期の意欲をどう紙に書こうか楽しく考えている姿が見られます。それぞれのポケットの中には、たくさんの宝物が集まりました。

日常生活みなおし隊 もっとワクワクする毎日に

今年は「ワクワク」をキーワードに、校内の様々なところで新しい取組が行われています。

運動会　ラジオ体操から「かいせい体操へ」

これまで準備体操として、全校でラジオ体操をしていました。しかし、「せっかく体育の研究を始めたのだから、新たな体操を考えよう。」と夏休み中に山本先生が中心となって考えました。そしてワニマの「やってみよう」の曲にのせた「かいせい体操」が完成しました。運動会当日は、ぜひ皆さんも一緒に「やってみよう!」

運動会開会式のファンファーレ

今年度、音楽クラブが準備室で眠っていたトランペットやトロンボーンをつかって活動しています。そこで、「運動会オープニングにファンファーレをやろうよ。」という勝又先生の呼びかけに、三浦先生が作曲し、ファンファーレ隊が結成しました。先生と児童が一緒に演奏します。なにしろ初めての取組です。運動会当日ではどんな音がでるか・・・ワクワクとドキドキです。

ミュージックフェスティバルを開催します

今年の音楽委員会からの要望により、R5に実施した集会を再開することとなりました。12月の昼休みに4日間開催します。参加は、個人でもグループでもクラスでも OK。 歌、器楽、ダンスなど、ステージで発表してみたい人を募集したところ、応募箱にたくさんの参加希望が集まりました。みんなの「やってみたい。」が集まっています。発表者も見るほうもドキドキ、ワクワク。今から本番が楽しみです。

食彩の王国で放送されます

このたび、テレビ朝日　土曜日の朝9:30から放送の番組「食彩の王国」で、開成町の「弥一芋」が取り上げられることになりました。地域の食材がどのように活用されれているかを取材する中で宮上さんが取材を受けました。その中で開成町では既存の料理だけでなく、給食やフレンチにアレンジして取り入れようとしていることが注目されて、柳川栄養教諭が取材を受けました。先日、TVのスタッフが来校し、給食の様子や献立を作成している様子を撮影しました。弥一芋を使ったフランス料理風にアレンジした給食のメニューを合同開発している活動なども紹介される予定です。放送予定日は一週間前に発表になるそうです。どんな番組になるか楽しみですね。



運動会の練習も大詰め

今週末の運動会に向けて、校内の練習の様子もいよいよ大詰めです。特に表現の学習が中心ですが、子どもたちが自ら気づけるように、先生方も動画等を活用し、さらに良くするためにはどうしたら良いか考えさせたり、互いに見合って感想を伝え合ったりする活動を大切にしています。先日は、1年生が他のグループの踊りを見て「～のところはとてもよかったけど、もう少し腕を大きく回すといいと思います。」と発言していた姿を見て、運動会の学習を通して大切な力が育っていることを感じ嬉しく思いました。



日頃の備えと、的確な行動

10月16日（金）給食の時間中に、職員室内の携帯電話から一斉に緊急地震速報を伝える警報音が鳴り響きました。教頭先生が校内放送で「大規模地震が発生する恐れがあります。落ち着いて避難行動をとりましょう。」と呼びかけました。職員室では情報の確認を急ぎましたが、確かな情報が得られません。しばらくして、警報取り消しの通知が入り、ようやく「避難行動解除」を伝えることができましたが、それまで、校舎内では静かに落ち着いて行動することができていました。いざというときに的確な行動がとれた本校の児童を誇りに感じるとともに、日頃の備えの大切さを実感しました。その後、昼休みには「さっきは怖かった～」というほっとした声が聞かれました。

校長室の窓から

先日ある冊子の中で「『五月雨をあつめて早し最上川』松尾芭蕉が詠んだこの名句には、大雨に対する自然の畏怖がありながら・・　」という文章があり「おや？」と思いました。「五月雨って大雨のことだっけ？」気になって、周囲の人にイメージを聞いてみました。すると「パラパラ雨」「ザーザー雨」「しとしと雨」と「五月雨」といっても捉え方はバラバラでした。

「言葉」は人によって受け取り方に大きな違いがあると痛感します。たとえば「味噌汁を作ろう」といえば、大方の人は作ることができます。しかし、具やだしのとりかた、使う味噌など、人によって「これが味噌汁だ」と感じるものはバラバラです。だからこそ丁寧な説明と確認が必要になります。また、先日息子に、「８時１０分前と言われたら何時のことを指すと思う？」と聞かれ、当たり前のように「７時５０分頃のことでしょう。」と答えると、「最近の若者は８時から８時１０分までの間のことを指すらしいよ。」というのです。デジタル時計世代にとっては、針が戻るというイメージがないので、そのような捉え方をする人が増えてきているそうなのです。「まさか？」と思い、近くにいた高校生の姪に聞いたところ、当然のようにそのような答えが返ってきて驚きました。これらのことからも、自分は当たり前だと思って伝えていないことが、相手との認識との間に齟齬を生むことがあるということを実感しました。大切なことは、きちんと言葉で伝えること、相手の言葉をしっかり受け止めること、私たちは「言葉」を使って生きているのです。言葉を大切にして人との良い関係を築いていきたいものです。